

第2次北九州市生物多様性戦略（2015年度-2024年度）の特徴

1 次期戦略の基本的な考え方 ～「北九州市らしい戦略」とする～

- 本市の自然環境の特徴や自然の利活用について具体的な事例を記載
- 生物多様性の重要性と市民の暮らしとの関わりをわかりやすく記載

2 基本的な考え方をうけた次期戦略の特徴

- 生物多様性の重要性、現戦略策定以降に示された生物多様性を取り巻く現状を具体的な例を用いて記載。

（生物多様性の重要性と生物多様性を取り巻く現状）

- ・ 生物多様性の定義
- ・ 生物多様性における3つの多様性
（「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」）
- ・ 愛知目標の考え方
- ・ 生態系サービスと4つに分類されるサービス
（「基盤サービス」「供給サービス」「文化的サービス」「調整サービス」）

- 現戦略の主な成果として代表的な取り組みを記載。

- ・ 里地里山の持続的な利用～小倉南区発「日本のふるさと」推進プロジェクト
- ・ 北九州市自然環境保全ネットワークの会（自然ネット）の取り組み
- ・ 響灘ビオトープの開園と自然環境学習施設としての取り組み

- 本市の生物多様性の4つの危機の分析し、それらを受けた基本理念の設定

（4つの危機）

- ・ 開発など人間活動による危機（第1の危機）
- ・ 自然に対する働きかけの縮小による危機（第2の危機）
- ・ 人間により持ち込まれたものによる危機（第3の危機）
- ・ 地球環境の変化による危機（第4の危機）

（基本理念）

都市と自然との共生 ～豊かな自然の恵みを活用し 自然と共生するまち～

- 戦略の推進に向けた数値目標の設定

基本目標の達成状況を評価するため、新たに11の数値目標（再掲含む）を設定